

◆御祭神 高照姫命

大己貴命の御子であり、農耕治水の祖神、衣、食、住の守護神と伝えられる。

◆御社名 水無神社

水無は本来、ミナシ、水成しであり、水主（みぬし）と言われる。

◆社殿及び社地

本殿、拝殿、神楽殿等主な建造物は何れも明治六年より同十二年迄の造営になる神明造りで、神饌所、宝蔵、社務所は昭和の初期の建築で合計百十八坪、この外に御旅殿、同社務所等三十二坪がある。

境内地は千三百二十二坪で千余年を経た数多くの檜、



榎、杉等が社殿全体を囲んで密生、五千余坪の境外社有地はそのほとんどが境内に接した山林であり、境内と共に一大森林をなしている。

◆由緒沿革

鎮座、創立の年代は詳らかでないが、文永年間に飛騨一の宮水無神社を御勧請奉斎したものと伝えられる。現存する記録によると、延文二年（一三五七年）十月、越後守藤原家有（木曾領主、木曾家有）によって社殿の再興がなされたのを始めとして木曾氏代々の守護神として木曾総鎮守と称され御嶽神社と共に深く崇敬されて来た事が知られる。天正年間木曾氏は下総へ移封となり、木曾は尾州藩の代官山村氏の統治するところとなったが山村氏も又代々崇敬厚く、木曾氏と同様に、社殿の修築、神領の寄進等も再度に留まらず、近郷十二ヶ村をして奉

仕せしめた。社領は木曾家より寄進あり後尾州家累代除地を賜わった。明治維新に至り山村氏美濃へ移った後はすべて福島町民子のみの奉仕するところとなったが近郷町村にも崇敬浅からず明治五年十一月村社に昇格、次いで大正十三年三月には郷社に、更に昭和十年十二月に県社に列せられた。昭和二十一年四月国家の管理を離れ宗教法人として神社本庁に所属して今日に及んでいる。

◆棟札

表



水無大明神御寶殿至徳二禊丁丑林鐘初三造畢 大願主伊豫守藤原家信 奉行入原野彈正藤原有重 大工 敷輪兵衛次郎入道妙禪 馬三足料足三十貫下行 小工 兵衛五郎重宗 衛門次郎頼宗 右馬四郎兼宗

裏



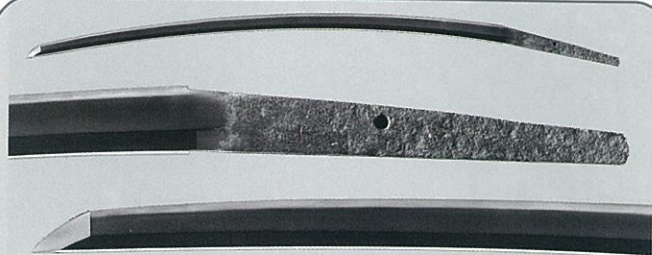
延文二年丁酉十月二十三日 大願主越後守藤原家有以前開基不知年月

■本社建替えの棟札（最古の記録）

◆祭儀

四月二十九日 祈年祭（春祭）
七月二十三日 例祭 渡御祭
十一月二十三日 新嘗祭（秋祭）
の大祭の他一月一日の元日祭を始め年中の恒例祭典二十一回。

また、結婚式初宮詣、各祈願祭報告祭など社頭を賑わす行事も多く、中でも交通安全の祈願は、古く江戸時代



■県宝太刀：銘 恒 鎌倉時代
長さ 77.9 cm 反り 3.3 cm（昭和 44 年に県宝に指定）



■木製彫刻 狛犬
高さ 30 cmあまり金箔塗 作製の年代、由緒など不明だが室町期のものと推定



■墓 股（かえるまた）
室町時代の様式
長さ 85 cm 高さ斗尻で 18.5 cm
旧社殿の装飾の一部



■懸 仏（かけほとけ）
〔御正体〕
直径 16 cm 厚さ 0.6 cm
木製台に銅板貼 中央に約 5.5 cm の大日如来像、花瓶、天蓋等が付けてある 製作年代は室町・鎌倉期と推定



■古文書：「当社寄進物棟札歳々鏡」
天正 19 年より寛正 3 年までの記録帳 この他「歳代記」など古文書多数



■釣燈籠：金銅製金鍍金
高さ 30 cm余りで「寛文 5 乙巳 3 月吉日 山村良忠（註、5 代代官）奉納」と刻まれている